

学校経営 ビジョン	夢や目標をもてるよう「導き」、身に付く力となるよう「鍛え」、一人一人に「寄り添い」ながらニーズに合った指導や支援を行い、成長や変化を「見届け」て工夫・改善に取り組むことで、児童が「明日も行きたいと感じる学校」の実現を目指す。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知 育	<p>重点目標：学力の向上 手段：</p> <p>1 児童がわかる・できると感じる授業実践 (1) 主体的・対話的で深く学ぶ学習の推進 (2) ICTの授業活用1日1回以上100% (3) 読書年間冊数下学年100冊、上学年50冊達成率70% (4) 朝の読み聞かせとハートタイムの実施</p> <p>2 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 (1) 朝の活動や業間を生かした基礎基本の定着 (2) 各学力テストの分析に基づいた指導の充実</p> <p>3 考えや思いを積極的に表現する力の育成 (1) 生徒指導の3機能に留意した指導 (2) 年間を見通した計画的な作品応募</p> <p>4 家庭学習の充実 (1) 授業と連動した宿題の精選</p>	<p>1について (1)について 自己評価の結果に係る要因として、教師の授業力の更なる向上が挙げられる。児童の学習意欲を十分に喚起できていないまま問題解決を促したり、理解度の見届けが十分ではなかったりする場面があり、そのことが児童側の学習意欲の差に影響してくると思われる。学習意欲のある児童は、「知的欲求」「承認欲求」が高く、試行錯誤することの耐力などの学ぶ姿勢が備わっていると言える。そのため、教師が「わからせる手立て」「できるようにならせる手立て」を講じていく必要がある。特に、児童の問題解決の能力や話す力を高める必要がある。今後、学年や教科ごとに個別最適な学びの実践事例を蓄積していきとよい。また、学力テストやCRTの結果分析を活用して改善を図るなど、学力向上のマネジメントサイクルを取り入れた組織的な取組ができるとよい。</p> <p>(2)について 教室の授業中のタブレット活用率は向上している。今後、個別最適な学びを推進するためにも、次年度小林市で導入予定である「AIドリル」の活用の仕方について研修と活用方法の計画を立てていく必要がある。</p> <p>(3)について 児童の自己評価も保護者の自己評価も、読書に関する評価が低い。だが、児童の読書への関心が低いわけではない。図書室に行けば進んで本を手に取り読み始める。評価指標が「休み時間に本を読むか(児童用)」「本を読む習慣があるか(保護者用)」となっていることから、否定的な回答になっていると考える。児童が本に親しんでいるかどうかを、貸し出し冊数や本を読む時間でなく、「どんな本がすきか」「本を読むことは楽しいか」といった質問に変え、その回答から評価してはどうだろうか。学校としては、本に親しむ児童を育てていくことには変わりない。</p> <p>(4)について 朝の読み聞かせとハートタイムは予定通り実施できた。読み聞かせボランティアの方々のご協力は大変ありがたい。ただ、絵本の挿絵が見にくいこともあるので、その際は教室の視聴覚機器で補助できるとよい。</p> <p>2について (1)について 朝の活動として、漢字の読み書きや音読、宿題の解説などを行ってきた。10分弱の時間帯を活用することで、持続可能で学習効率の高い取組になっていた。しかし、業間の時間(学級の時間)は、フレキシブルな取り扱いで学力向上以外にも有効に活用できていた。各学級担任が行っている「短時間で学習効果のある活動」を紹介し合い、共通実践できるとよい。</p> <p>(2)について 学力分析は、「6年生の全国学力調査が4月」「5年生のみやざき学力調査が12月」「校内の全学年対象のCRTが1月」に行われている。これらの結果分析から「正答率の低かった学習内容」を一覧化した資料を提示したり、学力向上につながる授業技術研修を計画したりして、教師間が学び合えるOJTの場を設けられるとよい。</p> <p>3について (1)について 自分の考えや思いを積極的に表現できない要因は、その児童によって異なると思われる。まずは、学年・学級によって児童の実態が異なるので、生徒指導の3機能に関する実態把握を行う。そして、児童の特性に応じて、「自尊感情を考慮した働きかけ」「共感的理解の風潮のある学級づくり」「活動計画や内容を児童に自己決定させる流れのある授業構築」を意識し、それらの実践効果を教師間で共有できるとよい。</p> <p>(2)について 昨年度の反省を受けて、作品の募集要項をファイリングし職員室に常備した。今後は、「校務支援ソフトのG4th」も活用して、職員への周知を図るとよい。また、学習内容と募集内容のつながりを整理しておき、一覧表を作成し見直しをもって制作に取り組みるとよい。(例)租税教室(6年)＝「税に関する絵はがきコンクール」</p> <p>4について ・保護者より、「宿題の量と内容」「家庭学習の手引き」「ノーメディアデー」についてのご意見をいただいた。「宿題の量と内容」については、各学年の実態に応じた宿題の出し方ができるように、職員間で情報交換を行い、確認していく必要がある。「家庭学習の手引き」については、年度初めの周知が十分になされていなかった。今後、資料を見直して、改めて保護者にお知らせする必要がある。「ノーメディアデー」は、小中連携の取組であり、中学校の定期テストの時期に合わせて小学校も設定する取組だが、本年度は連携が不十分であった。宿題が児童の学力向上に効果をもたらすようにするためには、授業内容と関連させて「予習」「復習」となるような内容の宿題を課すことが望ましい。宿題として取り扱いやすい副教材を選定したり、放課後の時間を確保したりすることで、家庭学習の充実を支援できるとよい。</p>	3.0	3.3	<p>・児童の学習意欲の向上においては、授業だけでなく、更なる家庭との連携が必要である。</p> <p>・読書への関心については、図書室の利用促進につながるようなアイデアが必要だと感じる。児童同士や図書委員からのお勧めの本や推薦など。</p> <p>・生徒指導の三機能を生かした授業を推進してほしい。</p> <p>・家庭学習は児童だけでなく保護者の協力が必要になるので各家庭への周知を引き続きお願いしたい。</p> <p>・「できるようにならせる手立て」「わからせる手立て」を講じていく難しさと同じく「興味関心を持たせる事」が一番だと感じる。</p> <p>・読書活動への取組も大変だと思う。それとは別に教科書や図書の本を読んだ声を録音し、高齢者へ聞いてもらう活動をしてはどうか。児童は読み手意識が高まり、高齢者は学校への関心も高まると思う。</p>
徳 育	<p>重点目標：豊かな心の育成 手段：</p> <p>1 基本的な生活習慣の形成 (1) 「あいさつ」「返事」「言葉遣い」の継続指導 (2) 規範意識を高める指導(紙屋っ子の約束)</p> <p>2 道徳教育、人権・同和教育の充実 (1) 「考え議論する」道徳科授業の充実 (2) 道徳教育・人権同和教育の充実(年2回の人権に関わる授業の実施)</p> <p>3 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期解決 (1) いじめの認知解消率100%、不登校0 (2) 教育相談体制の充実</p> <p>4 「自分の命は自分で守る」意識の醸成 (1) 各種避難訓練の充実 (2) 登校班指導の徹底</p>	<p>1について ・「あいさつ」を意識付ける取組が必要であり、小中合同挨拶運動も継続する。 ・保護者への啓発(マチコミ、ホームページ等)をさらに行っていく。 ・教員間で重点課題を話し合い、一緒に取り組む必要がある。(アンケート等)</p> <p>2について ・道徳科の授業では、昨年度までの研究を継続しているが、今一度、研修をして深めていく必要がある。新たに来た職員へも共通理解できる機会を設けていく。 ・人権同和教育については、研修の内容も充実しており、それを受けて、各学級で実践できた。</p> <p>3について ・毎月のアンケートを手がかり、教育相談体制ができている。問題発生時、職員の意思疎通ができているため、すぐに対応することができた。 ・保護者から子どもの話をもっと聞いてほしいという要望も見られたので、子どもが本音を言いやすいレポート作りと訴えがあった時の聞く体制を作っていく意識をもつ。</p> <p>4について ・各種避難訓練については、長期的視点をもって訓練の計画を継続させていく。 ・登校班長会を実施し、子どもたちの意識を高めていくようにする。(紙屋っ子タイムに2～3か月に1回程度) ・通学路については、危険箇所改善の要望を引き続き行う。</p>	3.1	3.3	<p>・男女関係なく仲が良いので感心する。</p> <p>・通学路は危険箇所も多いので改善要望を挙げるとともに児童への指導も引き続きお願いしたい。</p> <p>・自分の事は自分でする努力、そして周囲の人への気遣い思いやりの心が育ってほしい。</p>

<p>体 育</p>	<p>重点目標：体力の向上 手段： 1 規則正しい生活習慣の育成 (1) 「早寝・早起き・朝ご飯」＋「排便・歩いて登校」の児童達成率80% 2 体力向上の推進 (1) 体力向上のための準備運動の工夫（瞬発力を高める運動を取り入れる） (2) 2学年合同体育による技能、競技力の向上 3 立腰指導と正しい鉛筆握り、箸使いの徹底 (1) 授業前・授業中の立腰指導の徹底 (2) 正しい鉛筆の握り方定着100%</p>	<p>1について ・「早寝早起き朝ごはん」については、どの学年もできていた。しかし、「排便と歩いて登校」については、偏りが見られ、排便が15% 歩いて登校が32%の児童ができていなかった。歩いて登校ができていない児童は、なるべく歩いて登校できるように保護者の協力も必要だと感じた。 2について (1)について 柔軟性を高める運動は、ストレッチ動画の作成や活用の呼びかけを行ったが、体力テストでは依然として低い結果であった。今後も継続して取り組む必要がある。 (2)について 2学年合同体育は、「型ゲーム系」「水泳」などでは教育的効果が期待できるが、時間割の調整などの労力を鑑みると、単学級での授業の方が、授業効果が高い場合もある。子どもたちの実態や運動領域に応じて、柔軟に指導計画を立てる必要がある。 3について (1)について 立腰指導の徹底では、授業開始前の号令の時には、ほとんどの児童ができていたが、文字を書く時や話を聞く時にできていない児童もいるので、その都度指導が必要である。 (2)について 鉛筆の握り方については、その都度指導しないとできていない児童もいるので、随時指導が必要である。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.0</p>	<p>・歩いて登校しない児童がいると登校班が機能しなくなるので改善が必要である。 ・2学年合同体育は今後も続けてほしい。少人数で活動するより効果があると思う。 ・早寝早起き朝ごはん、排便の習慣は大事である。 ・個々の得意とするものをのばし自信につなげること、体育全体の向上につながるのと良いと感じる。(フラフープ、なわとび、竹馬など)</p>
<p>食 育</p>	<p>重点目標：望ましい食習慣の育成 手段： 1 個に応じた給食指導と食事マナーの徹底 (1) 計画的な給食指導の実施と食べ残し0 (2) アレルギー対策の徹底 2 栄養教諭・養護教諭の連携による食育の推進 (1) 指導計画に基づいた給食主任・栄養教諭等を活用した食育指導の実施 3 食を通じた感謝の心の醸成 (1) 食に関する学級活動・家庭科授業、給食感謝週間の充実による感謝の心の醸成 4 家庭・地域等との連携による食への意識の向上 (1) 実践に結びつく年2回の「弁当の日」の充実 (2) 米作り・いも作り等による食育の推進</p>	<p>1について ・好き嫌いなく給食も残さず食べていた。残食もほとんどなかったのが良かった。学校だけでなく、家庭でも好き嫌いなく食べるように啓発を図っていく必要がある。 ・アレルギー対策では、アレルギー調査の実施や給食除去食の確認などをしっかり行った上で食べさせた。 2について ・1年生の給食試食会を栄養教諭と一緒に実施することができた。保護者の感想の中に、一緒に給食を食べることができなかったのが、残念であった。さらに、楽しみにしている給食時間は楽しく会話をしても良いのではないかという意見もあり、コロナ禍での給食指導の難しさを感じた。1年生のみ栄養教諭を活用した食育指導を行ったので、コロナの状況を見ながら、他の学年も巡回してもらい、給食の栄養について話をしてくれる機会が持てたらと思う。しかし、臨時採用の栄養教諭のため無理が言えないのが現状である。 3について ・味覚の授業やモーモー教室などの外部講師を招いての食育指導ができて良かった。また、給食感謝週間の実施に向けて業者や給食センターにお礼の手紙などを書くことができ、食に関する関心が高まったので良かった。 4について ・年2回の「弁当の日」に向けて、夏休みには、高学年は家庭科の宿題としてチャレンジしてもらい、その他の学年も遠足時にお弁当作りを計画を立ててから、実施することができた。保護者に手伝わってもらったりしながら一緒に弁当作りをし、感謝の気持ちをお家の人に伝えたりすることができ、食への関心が高まったと思われる。米作りは5年生、芋作りは1・2年生が実施することができた。</p>	<p>3.5</p>	<p>3.7</p>	<p>・わが子は好き嫌いなく育っているのだから感心する。 ・食への関心はいろいろな行事を通じて深まっているように感じる。 ・コロナ禍でマスク着用、黙食等給食指導も苦労したと思う。 ・地産地消で郷土愛も一緒に取り入れていただくとうれしい。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>教職員の働き方改革 手段： 1 リフレッシュデーの実施 (1) 水・金曜日のリフレッシュデー（17:15退庁）の完全実施 2 全職員による施錠管理 (1) 全職員の協力による施錠管理</p>	<p>1について ・年度初めや長期休業明け、期末整理期間等を除き、職員一人一人が心掛けていた。ただ、17:15を徹底することはできていない。今後は、業務内容のスクラップ&ビルドを更に推し進め、職員自身の働き方の意識を高めていく。 2について ・管理職以外の職員が施錠をする機会が殆どなかった。施錠の仕方を再度周知するとともに、管理職と職員それぞれが声を掛け合い協力していく。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.3</p>	<p>・多忙な業務の中でもぜひともリフレッシュデーの徹底をしてもらい、働き方改革を推進してほしい。 ・子供たちの成長を見守ってもらい感謝の意を表す。紙屋っ子がのびのびと健やかに成長しているのも校長を初め教職員のおかげである。これからも厳しくも優しい指導をお願いしたい。 ・児童クラブの存在も大きい。引き続き児童の受け入れをお願いしたい。</p>

<p>次年度の方向性についての校長所見</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定していた教育活動は規模の縮小や延期・中止などの対応が必要となった。しかし、それぞれの教育活動の目的を果たすことを念頭に、各職員で工夫改善に取り組み教育活動の充実を図ることができた。その結果は、児童の姿にも表れている。</p> <p>【知育】児童のタブレット活用能力が向上していること、校外の作品応募において多数の入選を果たすなど表現力が向上していること、学びの確認対策により学力調査の経年分析として前年度より結果が向上している児童が多くなっていることが挙げられる。 【徳育】昨年度に引き続き、「考え議論する道徳科」の推進を図ることで授業での活発な話し合いが展開されていること、教育相談体制の充実により児童の人間関係のトラブルに関する早期解決が図れていることや不登校の児童が0となっていることなどが挙げられる。 【体育・食育】家庭のご協力により早寝・早起き・朝ご飯の推進が図れていること、児童数の減少に対応し2学年合同体育により授業の充実が図れていること、各種体験活動により食への感謝が高まり給食の残滓がほとんどないことや食に関する関心が高まっていることが挙げられる。</p> <p>次年度に向けて、課題としてあげられている内容については、継続して取り組むべきことと改善・工夫し取り組むべきことを整理し、児童一人一人に寄り添いながら、紙屋小ならではの教育の推進に努力していく。そして、学校便りやホームページでの積極的な発信や児童の校外作品応募・新聞投稿への挑戦、まちづくり協議会等の地域活動への積極的参加を図り、家庭・地域との相互理解と協働に寄与していく。</p>
-------------------------	--